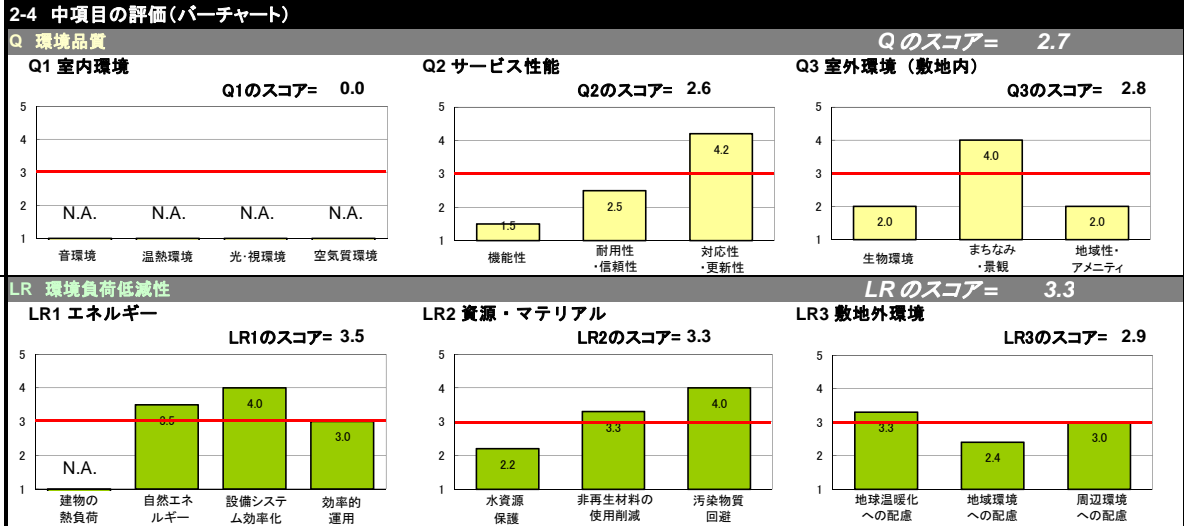
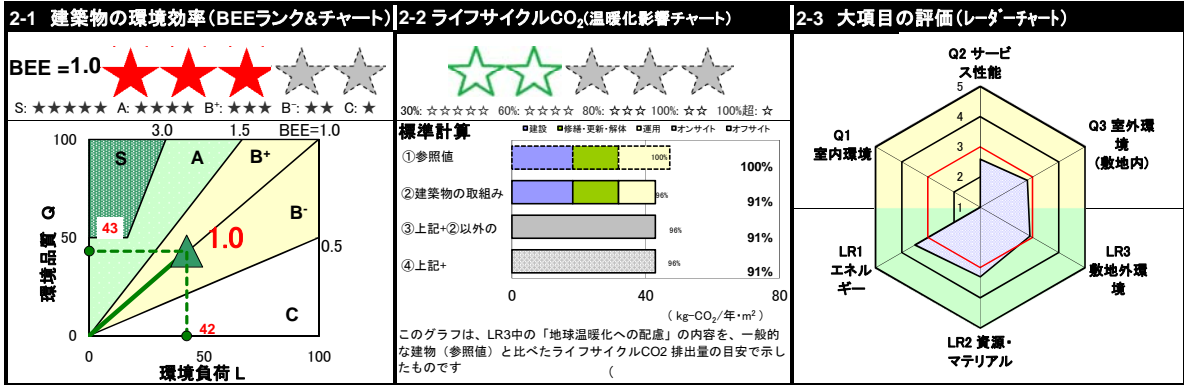


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	エスケー化研機名古屋事務所 第3号	階数	地上2F
建設地	愛知県半田市潮干町1-2	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法第22条地域	平均居住人員	4人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,300時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年11月12日
敷地面積	10,550.53 m ²	作成者	沢崎達栄
建築面積	1,304.06 m ²	確認日	2014年11月12日
延床面積	2,338.24 m ²	確認者	沢崎達栄



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 23.1 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
3.3	2.0	
②資源の有効活用	④地域材の活用	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし
3.3	1.0	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.7
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音									
1	室内騒音レベル			-	-	3.0	-		
2	吸音断熱対策			-	-	-	-		
1.2 遮音									
1	開口部遮音性能			-	-	3.0	-		
2	界壁遮音性能			-	-	3.0	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音									
1	吸音率			-	-	3.0	-		
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1	室温			-	-	3.0	-		
2	負荷変動・追従制御性			-	-	3.0	-		
3	外皮性能			-	-	3.0	-		
4	ゾーン別制御性			-	-	-	-		
5	湿度・湿度制御			-	-	-	-		
6	個別制御			-	-	-	-		
7	稼働時間変動に対する配慮			-	-	-	-		
8	監視システム			-	-	-	-		
2.2 湿度制御									
1	湿度			-	-	3.0	-		
2.3 空調方式									
1	空調方式			-	-	3.0	-		
3 光・視環境									
3.1 屋光利用									
1	屋光率			-	-	3.0	-		
2	方位別開口			-	-	3.0	-		
3	屋光利用設備			-	-	3.0	-		
3.2 グレア対策									
1	照明器具のグレア			-	-	-	-		
2	屋光制御			-	-	3.0	-		
3	視覚的対策			-	-	-	-		
3.3 照度									
1	照度			-	-	3.0	-		
3.4 照明制御									
1	照明制御			-	-	3.0	-		
4 空気環境									
4.1 発生源対策									
1	化学汚染物質			-	-	3.0	-		
2	化学汚染物質			-	-	-	-		
3	化学汚染物質			-	-	-	-		
4	化学汚染物質			-	-	-	-		
4.2 換気									
1	換気量			-	-	3.0	-		
2	自然換気性能			-	-	3.0	-		
3	取り入れ外気への配慮			-	-	3.0	-		
4	給気計画			-	-	-	-		
4.3 運用管理									
1	CO ₂ の監視			-	-	-	-		
2	喫煙の制御			-	-	-	-		
Q2 サービス性能									2.6
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1	広さ・収納性			-	-	-	-		
2	高度情報通信設備対応			-	-	3.0	-		
3	バリアフリー計画			-	-	3.0	-		
1.2 心理性・快適性									
1	広さ感・景観			1.0	0.50	-	-		
2	リフレッシュスペース			-	-	3.0	-		
3	内装計画			-	-	-	-		
1.3 維持管理									
1	維持管理に配慮した設計			2.0	0.50	-	-		
2	維持管理用機能の確保			2.0	0.50	-	-		
3	商業業務			2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
1	耐震性			2.5	0.31	-	-		
2	免震・制振性能			3.0	0.48	-	-		
3	免震・制振性能			3.0	0.80	-	-		
4	免震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数									
1	躯体材料の耐用年数			2.8	0.33	-	-		
2	躯体材料の耐用年数			3.0	0.23	-	-		
3	外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.23	-	-		
4	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			4.0	0.09	-	-		
5	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-		
6	空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15	-	-		
7	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-		

② 内装仕上げは施さない、鉄部は錆止め塗装表して塗り替え周期は

2.4 信頼性				1.0	0.19			
1 空調・換気設備				1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3 電気設備				1.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5 通信・情報設備				1.0	0.20			
3 対応性・更新性				4.2	0.29			4.2
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			
1 階高のゆとり			1階:5.0m 2階:4.35m	5.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ			(27.6×2+36.16×2)÷(27.6×36.16)=0.128	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり			2階床の積載荷重:17,000N/m ²	5.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.3	0.38			
1 空調配管の更新性				-	-			
2 給排水管の更新性				3.0	0.23			
3 電気配線の更新性			1階、2階とも天井や内装が無いため露出配管となる	5.0	0.15			
4 通信配線の更新性				-	-			
5 設備機器の更新性				3.0	0.31			
6 バックアップスペース				3.0	0.31			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.8
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④	半田市景観条例の制限に適合している	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		1.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.3
LR1 エネルギー				-	0.40			3.5
1 建築物の熱負荷抑制								-
2 自然エネルギー利用				3.5	0.29			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用			ルーファンを採用した自然換気システムを取り入れている	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			エネルギー消費抑制に繋がる照明を必要な数だけ配置する	4.0	0.43			4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0				
集合住宅の評価								
4 効率的運用				3.0	0.29			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.3
1 水資源保護				2.2	0.15			2.2
1.1 節水				1.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63			3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	砕石クラッシャーラン:土間下並びに外構アスファルト下	3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		内装を施さない鉄骨造建物	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.0	0.22			4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆の屋内鉄骨錆止め塗装や塗床仕上げを採用	4.0	1.00			
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				-	-			
3 冷媒				-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30			2.9
1 地球温暖化への配慮		①	自然換気システムを採用し運用時の二次エネルギー消費抑制を	3.3	0.33			3.3
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●			3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

エスケー化研㈱名古屋事務所 第3倉庫棟

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.5	0.13	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.12	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>道路を隔てた位置に公園があり、緑に恵まれた工業団地内での敷地内増築です。既設建物とは外観や高さを合わせる等して周辺との協調性に配慮しています。また、敷地内の既存樹木(中高木)は、止むを得ない場合を除き、工事に支障を来す場合は剪定程度とし出来る限り保存しています。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>※建物用途が倉庫のため、室内環境は対象外</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>用途が倉庫である特性上、余計な仕上げ材を施しません。また、階高や積載荷重については大きく設定し設計を行っています。これらにより、設備機器の改修の容易性や将来のコンバージョンの可能性に寄与します。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>工場立地法や半田市の景観条例に基づいた敷地並びに建物です。緑地や周辺環境へは一定の基準を持って取り組んでいます。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建物用途が倉庫であるため、一般的な建築物に比べてエネルギー負荷が小さくなります。その為、自然エネルギー等の直接利用は取り入れていません。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>鉄骨構造であるため、木材の利用はありません。再生材の利用については、実施設計段階では強く促していませんが、工事段階では積極的に利用を促して行きたいと考えています。また、鉄骨造の倉庫であるため建物解体時には分別やリサイクルが容易であると考えます。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地全体としての用途が「工場」であるため、関係法令を順守した運営を行っています。敷地周囲に路上駐車等は無く、従業員は敷地内の空きスペースを活用して効率よく駐車しています。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>